クロパトキン將軍の
著はせる秘史

日露新戰史

第參輯

露國今後の
極東政策は如何？

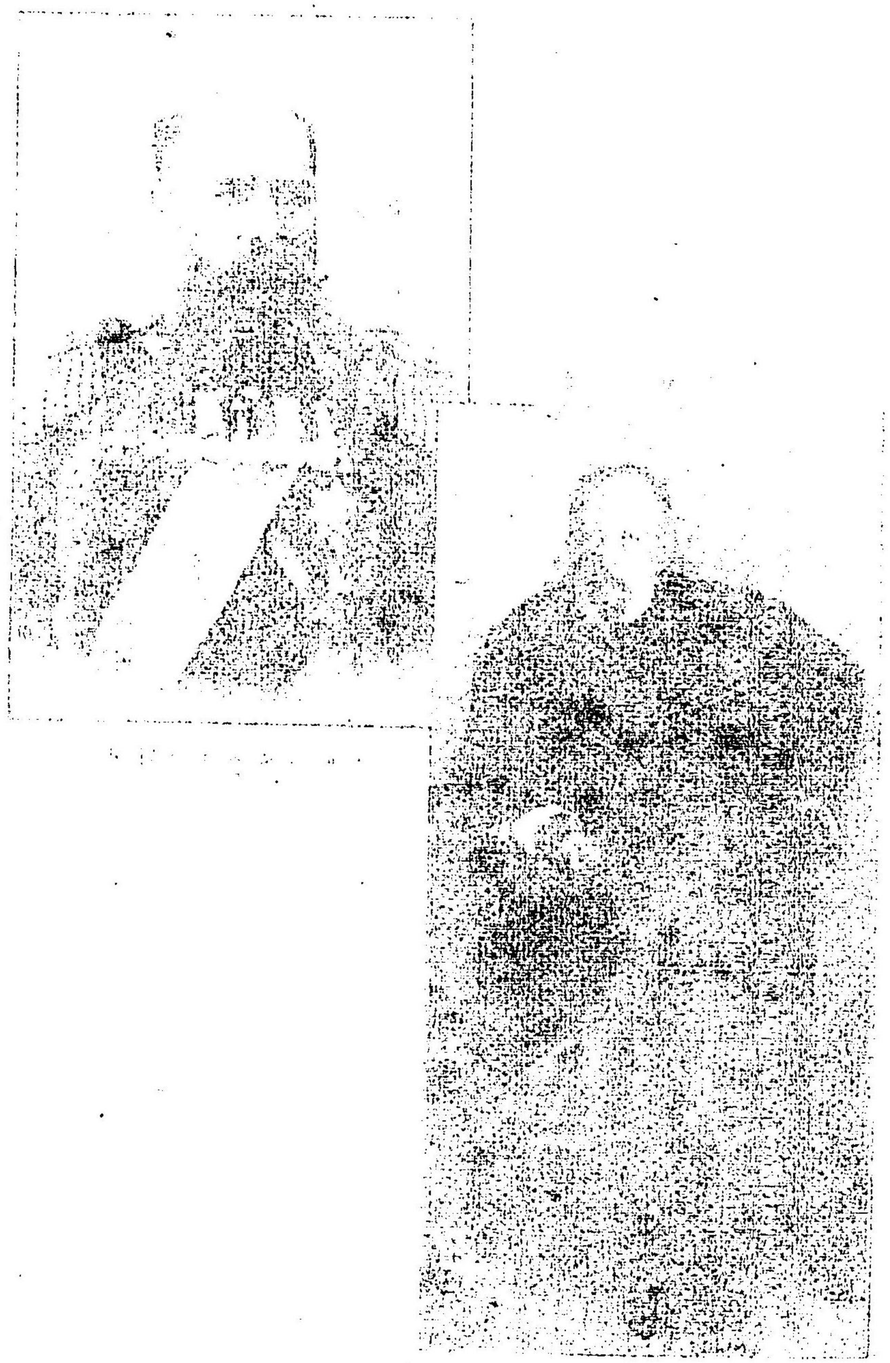
42-296

法學博士 戸水寛人 校閲
文學士 高田知一郎 譯述

日露新戰史

東京 報知社出版部

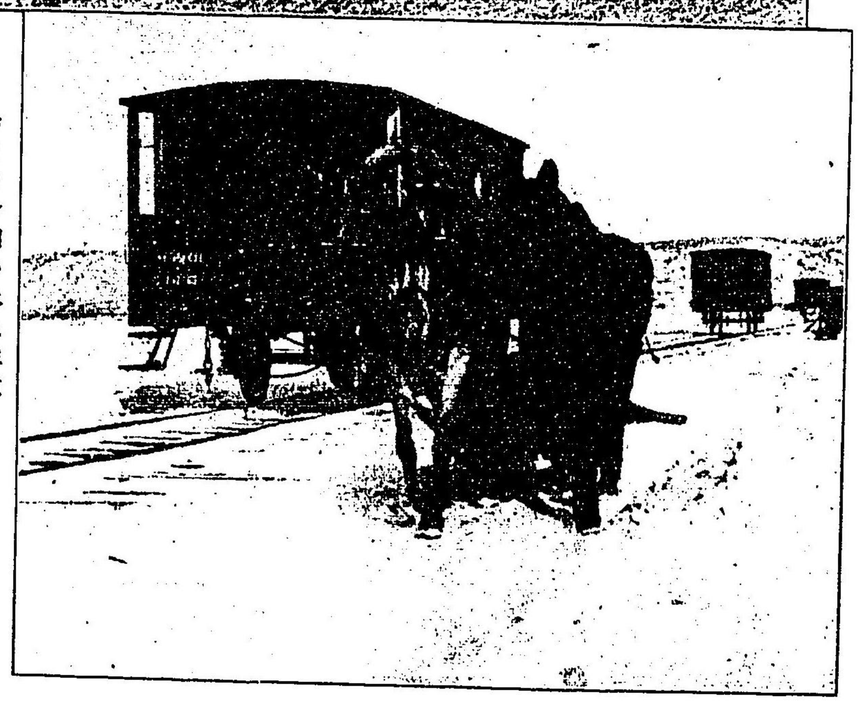
明治
4? 8 15
内交



グリッペンベルグ將軍

ウキッテ伯

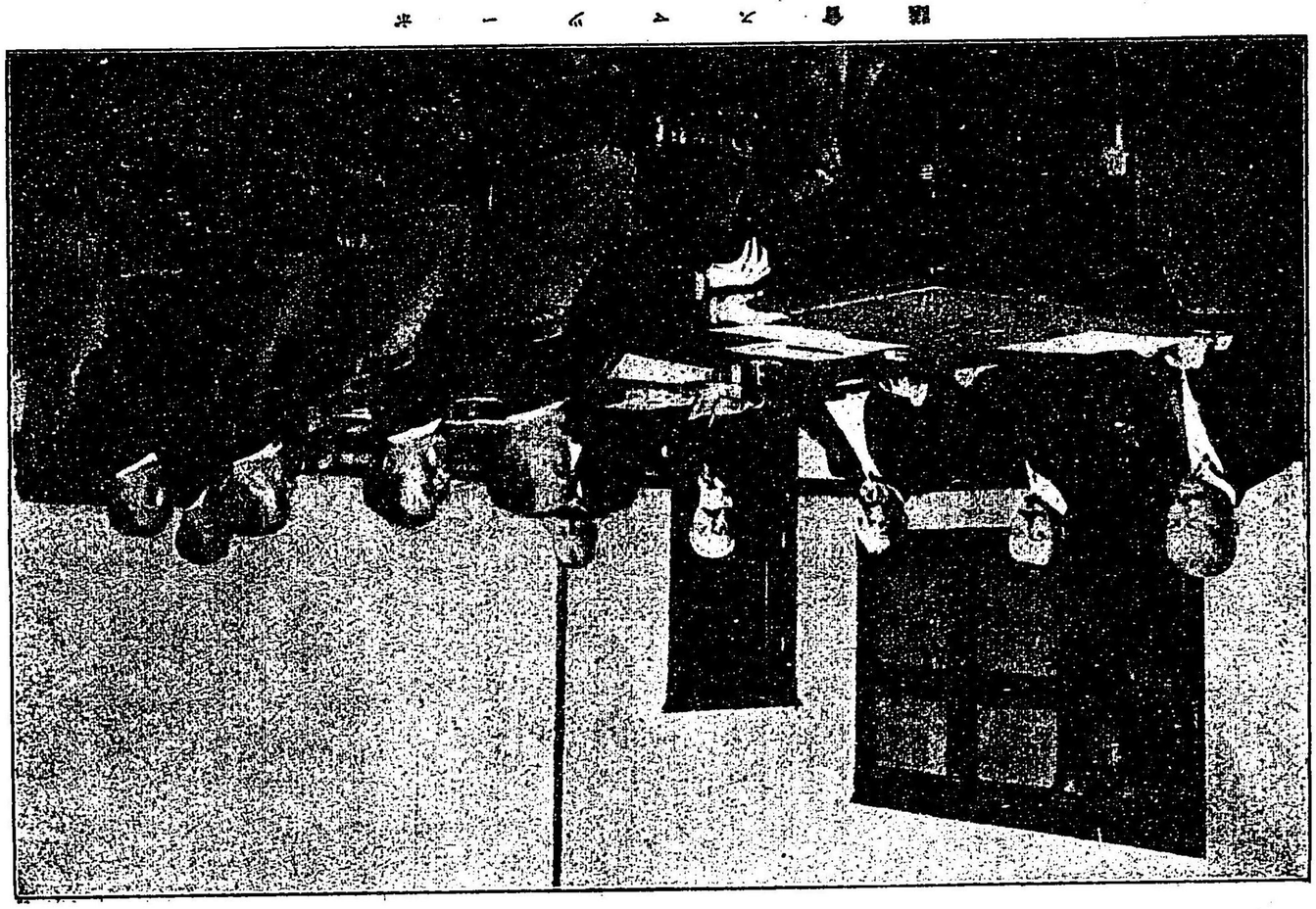
黑鳩公將軍の閱兵



バイカル湖の氷上殺道

露軍の宴會

露軍捕虜病兵の松山着



日露新戰史　第三輯

法學博士　戸水寛人校閲
文學士　高田知一郎譯述

敗戰の原因

帝國圖書館藏

千九百六年(明治三十九年)二月二十一日余は陛下に一書を奉り其中に於て次の如く言へり

「我露國の敗戰に對し臣は全責任を負ふを寧ろ幸福とす然れどそは歴史的方面より見れば虚僞にして且つ我露國陸軍に害あり我露軍に對しては兎角の評あるも偉大なるは事實なり然るに今若し敗戰の責任を余一人にて負はんか我陸軍は敗戰の原因を諸方面より研究するの熱心を缺くに至らん是れ將來の爲めに甚だ好ましからず」と

いでや余は余の見たる露軍敗戰の諸原因を以下に述べん

疑ひも無く主要なる原因は不準備の點にあり而して其主なる理由は大藏省が充分に經費を給せざるにありと認めざる可からず是れ第一に海軍費が過大に膨脹したるが爲めなり第二に極東經營に多大の經費を投じたるが爲めなり第三に歲入計算法の甚だ杜撰なるが爲めなり

千九百五年ルスキイ、インヅリット紙に於てマクシエフ教授は一論文を掲載し千八百八十八年より千九百年に至る間の露獨兩國の陸軍費を比較せり此十三年間の支出は即ち次の如し

獨逸は三十五億八千百萬留にして露國は三十四億七千九百萬留なり即ち獨逸は此期間に於て一億留を多く支出せり我露國の國境線は廣大にして一萬七千エルストに登り且つ其他に多くの理由あるを以て露國は平時に於て獨逸の約二倍大の軍隊を維持せざる可からず故に我露國陸軍は經費の大部分を經常費に充てざる可らず臨時費即ち近世的砲隊適

當なる軍需品適當なる交通機關の設備等に對しては我經費は實に言ふに足らざる小額なり而して斯の如きは實に實戰に於ては最も重要なるものなり

西も東も危險

我陸軍人員の多數なるに比しては我戰備は甚だ振はず千八百七十一年獨逸が二週間内に大軍隊を佛蘭西國境に送りて勝利を博せし時吾人は既に其不準備を悟らざる可からざりしなり千八百七十七年より八年に亘る露土戰爭に於て吾人は我動員組織に關して幾多の弱點を暴露せり降りて三國同盟組織せられ露佛同盟に對する反動起るや露國は三國同盟と開戰したる際に於ける國防の準備を爲すの必要に迫れり斯るが故に陸軍大臣の重なる注意は一に西境に向て拂はれたり隨て高加索トルキスタン及び西比利亞の軍管區に對しては可及的小額の軍事費を割り

充つるに至れり殊に西比利亞に於ては東は太平洋より西はウラル山に至る間に於て僅に數個大隊を有せしのみにして要塞は皆無なりき

斯る狀態の下に千八百九十四年は來れり即ち日清戰爭は來れるなり斯くて千八百九十八年に於て余はヴンノフスキイ將軍の後任となりサガロフ將軍はオブルチエフ將軍に代りて陸相となれり而して極東は益々多事となり我が露國は西境を顧みるの遑なく關東州滿洲及び黑龍州に續々として軍隊を派遣せざる可からざるに至れり余の先任官ヴンノフスキイ將軍は千八百九十八年より千九百二年に至る五年間に於て極東軍事費として豫算外に四億五千五百萬留を要求せしも時の大藏大臣ウキッテは僅に一億六千萬留を支出せしのみ而して後任官たる余は千九百三年に於て千九百四年より千九百八年に至る五年間の豫算外軍事費として八億二千五百萬留を要求したるに大藏大臣は此時も僅に一億三千萬留を支出するを約したるのみ

ウ伯の專横

若し大藏大臣ウキッテにして單に政府所要の金を集むるの任に當るものならしめば何等の問題も起らず然れど我財政事務を見るに大藏大臣は集金人たると共に其金を分配す可き責任を有す大藏省内には他省即ち交通省、陸軍省、海軍省、文部省、内務省、農務省、外務省等に屬する各局の組織ありウキッテは交通省所管内の事務に關しては經費多大なる東清鐵道を計畫して之を延設し陸軍省所管内の事務に關しては二箇軍團を組織して之を指揮せり二箇軍團の一は國境守備隊にして他の一個軍團は鐵道守備隊なり而も彼ウキッテは陸軍大臣には毫も諮らずして獨斷にも鐵道守備隊附屬の砲兵隊の型を定めたり又海軍省所管内の事務に關しては太平洋上に一大商船隊を組織し河川用砲艦隊を作り文部省所管内の事務に關しては高等工業學校を創設し内務農務兩省所管事務に關

しては東清鐵道を司配して都市村落を作り農事問題を獨斷し土地使用の割充を定めたり而して彼ウキッテは外務省所管事務に關しても亦獨斷にて清國行政官と談判を開き條約を締結し商人にして同時に外交官たる自己の代理者を清韓各地に派遣せり

「自分の襯衣は身體に一番近い」

『自分の襯衣は身體に一番近い』とは露國の諺なり極東の經營斯くの如く活躍し初めたる時此諺は事實の上に現はれ來れりウキッテの司配せる諸事の經費は他省の同等のものよりも寛大に取扱はれたり文部省所管經費は著しく切り下げられたるに拘はらず聖彼得堡及びキエフに於ては諸藝の建築物を建設し國產稅務局の建築に巨額の費用を投じ勞働者の爲めに宏大なる宮殿を築き大連建設哈爾賓經營及び之に關連せる事務に巨費を拋ちたり

巨額の臍繰金

東清鐵道は其經營法より見れば私人的なるも經費の出所より之を見れば純乎たる政府事業なり而して東清鐵道の經營に用ゐたる經費は所謂臍繰金中より支出したるものなり、臍繰金の組織を有するは啻に露國のみならず恐らく歐洲諸國にも或は此制度あらん史上の一新現象なり何が故に臍繰制度は起りたりや其理最も單簡なり各省の要求額を切り下げて其必要なる經營を中止せしむると同時に歳入豫算をも切下ぐるなり

而して其結果は實に驚く可きものあり帝國々防の必要甚だ痛切に感せらるゝに拘はらず毎年巨額の剩餘金は出で來るなり千八百九十四年より千九百年に至る十二年間に於て此臍繰的剩餘金は實に毎年二億萬留以上づゝありたり千八百九十八年度及び九十九年度に於ては豫算に現

はれたる歳入よりも歳入實額は二億萬留多かりき殊に甚しきは戰爭中の兩年度に於ても亦歳入實額は豫算歳入よりも毎年八千萬留宛多かりき

斯くの如くして陸軍大臣は大に其經費を制限せられ最も大膽なる計畫の下に萬事を遂行せり日露戰前十年間に於て陸相が極東の兵力を強むるに努めたる跡は次表を見れば歴然たり千八百八十四年に於ては黑龍洲滿洲及び關東州に於て僅かに十二個大隊、千九百三年には二十個大隊千九百四年には百四十個大隊を有するに至りたり斯くの如く極東に於て强力なるを得たるは實に西歐の防備を犧牲に供したるが爲めたり

海軍の大失態

日本は海軍國なり故に主なる戰爭は海にありて陸にあらざるや明なり若し露國にして日本海軍を殲滅し得たらんには日本は清國領土に於て

戰ひ得られざりしなり然るに事實は之れに反して我海軍は毫も陸軍を援助せざりき旅順港内の奥深く隱れて日本軍の行動を阻止するとすら爲さゞりき奥、乃木、野津の三軍は何等の妨害をも受けずして遼東半島に上陸し得たり而して殊に奥軍乃木軍の如きは我艦隊の目前に於て上陸したるなり

日本軍が大砲軍需品を上陸するに對して何等の妨害をも加へずして最後に對馬海の大慘劇は來れり斯くの如くして露國は實に未だ期至らざるに屈辱の平和條約を結ぶに至れり

西比利亞鐵道の缺點

我海軍の缺點は上の如し然るに之に加ふるに西比利亞幹線及び東清鐵道の缺點あり爲めに日本軍をして容易に攻勢を執るに至らしめ我軍の不準備を利用せしめたるを決して鮮少なりとせず

千九百一年八月吾人は東清鐵道に於て軍隊輸送用として一日廿輛の客車貨車を使用し千九百三年の夏に至りては七十五輛の客車貨車を使用し千九百四年(明治卅八年)一月十四日に於ては各三十五輛より成れる五列車を一日に使用し得ることになれり即ち兩終點より毎日百七十五輛の車輛を出發せしめ得ることになり而して西比利亞幹線に至りては軍用として一日に七列車を使用し得ると想像され居たり

開戰の前年即ち千九百三年に余等は日露戰爭に對して豫め畫策する處ありたり一旦戰端開かれたる曉には極東軍應援隊として歐露より四箇軍團を極東に派遣する筈なりしなり四箇軍團の中二箇軍團は正規兵二箇軍團は豫備兵とす可き筈なりき若し一日に僅に五列車を使用するとせば斯る比較的小軍隊を輸送するにも實に五箇月を要するなり然るに何ぞや千九百四年に至りて日露戰端を開くに至りて豫定の軍用列車運轉を開始したるに西比利亞幹線は一日僅に三列車を運轉し得たるのみ

我等は三列車を以て動員軍隊の集中及び軍需品の輸送を爲さゞる可からず

西比利亞幹線中の最大難處はバイカル湖なり碎氷工事は秩序的に行はれず之に加ふるに迂回線の工事は遲々として進捗せず輸送狀態斯くの如くなりしを以てヒルコフ侯は一案を案出して氷上に輕便鐵道を布設し機關車は解體して湖を渡し車輛は馬匹を使用して氷上を渡すに至りぬヒルコフ侯の熱誠と精力は大に吾人を勵まし怖る可き危險より吾人を救ふに至りぬ肌を切る寒風の中に萬難と鬪ひたる老侯は遂に重病に陷りしも吾人を救ひたる功や沒す可らず

千九百四年三月余は總指揮官として極東に出發するに先ち陛下に一書を奉りたり而して勝利を博するに最も必要なる條件を奏上せり其條件は當に一のみならざりしも其中に於て鐵道に關して次の如く言へり

「軍隊の集中に成功し軍需品を迅速に輸送せんとせば少くとも一日に

三十列車を運轉せざる可からず然れど現今に於ては其半數よりも少き十四列車を運轉し得んとを欲す現狀の如くバイカル湖と哈爾賓間に於て一日僅に四列車を運轉し得るのみにては臣等の地位や實に甚だ憐む可きものなり」

同年五月廿三日ヂリンスキイ將軍は關東總督の書を齎して余の許に來れり之を披見するに彼總督は鴨綠江を攻擊するか或は旅順港に南下す可き時期到來せりとなせり歐露より余の指揮の下に來る可き筈の軍隊は十二個師團なりしに此時余は僅に一箇師團を有せしのみなりき然るに攻擊の命令は下れり斯くて軍容整はざるに進軍したる結果六月十四日の瓦房店の敗戰となりたり六月廿七日に至りて第一軍の先發隊は漸く遼陽に到着せり

遼陽にて勝ちたるやも知れず

若し吾人にして今一列車多くを運轉し得たりとせんか遼陽戰に於ては第一軍と西比利亞第六軍團とを有し居たらん然らば此六十箇大隊を以て優に日本軍を敗り得たらんなり

翌年二月に於ては我軍は五萬の兵を缺き居たり即ち二箇軍團を缺き居たるなり若し軍隊輸送の遲滯なかりせば露軍は此六十個大隊を以て奉天戰の總豫隊と爲し得たらん然すれば奉天戰の勝敗は日露地を代ふる可りしなり開戰後十六個月を經たる千九百五年の夏に至りても西比利亞幹線は僅に一日に十二列車東清鐵道は十八列車を運轉し得たるのみ余が滿洲へ出發の際に陛下に哀願したる列車數には未だ達し居らざりし也

黑鳩公の泣言

千九百四年十月廿六日陸軍大臣は余に打電して廿八日より西比利亞線

は十二列車を運轉し得可しと報じ來れり余は此電報に基きて鐵道に關して必要缺く可からざる事項を擧げて陛下に奏上し十一月十三日の捧呈文に於て左の如く言へり

『今後日を經る毎に露國との鐵道連絡を益々切に感ずるに至る可し我軍は兵數甚だ少かりしも軍需品(小麥、大麥、牧草、藁、薪材及び家畜)は悉く地方供給に仰ぎて軍隊を維持し來りたり然れども今後間もなく此等の供給は盡きて軍隊維持の爲めに歐露より此等の食料を輸入せざる可からざるに至る可し

今我軍にして進軍を開始せんか狀態は益々悪しくなる可し既に戰爭の爲めに荒廢に歸し且つ山地に於ては供給甚だ少き滿洲に入らざる可からず我軍の現在の數にても尚ほ且つ毎日五列車を以て日々の需用品(麥粉、碾割燕麥、牧草、肉類)を歐露より輸送せざる可からざるに今後は薪材の輸送をも受けざる可からず

然れど軍隊は其日暮しを爲すと能はず必ずや數個の貯藏倉を有せざる可らず是れ曾に其日々々の需要に應ずるのみならず實に將來に對する豫備品となる者なり

殊に戰鬪を開始したる場合には列車の必要を感すること最も大なり曾に充分なる食料を給する必要あるのみならず砲工兵に對する武器彈藥の輸送の爲めに驚く可き列車數を要す軍隊の運動砲兵の移動戰線隊の補充、僅に二三日間にて其數數千にも登る可き負傷兵の後送等は皆列車の力を藉らざる可からず

戰時に鐵道の必要なるは斯くの如く夫れ大なり然ればこそ現今歐洲各國にては一軍團の爲めに專用單線鐵道を要し少くとも毎日十四列車より廿列車を運轉せざる可からずと信ずるに至れり然るに我軍は今九個軍團を有するに拘はらず僅に單線鐵道一つを有して一日に八列車乃至十列車を運轉しつゝあるに過ぎず之こそ實に慘憺たる敗衂を招きし主

なる原因なれ

援軍の來着は遲々として進行せざるが上に歐露より來る軍需品も春以來亦著しく停滯せり夏時に用ふ可き雨除外套は毛皮外套の必要なる此頃に至りて漸く到着せり余は恐る我全軍が毛皮外套の供給を受くるは恐らく雨除外套を要するの時ならん然れど今迄は吾人は凡ての困難に堪へたり吾等は敵と戰ひて退却したるも餓死せざりき是れ地方の供給ありたるが爲めなり然れど形勢は一變せり地方の供給は今や將に盡きなんとす

又鐵道の輸送力を大に增加するにあらずんば軍馬も亦餓死するに至らん若し非常なる食料を一地點に貯へずんば一小地域内に集中したる多數の人馬は食料缺乏の爲めに病魔の襲ふ處となる可し

食料の大貯藏なくんば鐵道事故の生じたる時軍隊は如何に苦き經驗を嘗めざる可からざるか

陛下の御信任に據りて三軍の指揮權を授けられたる臣は忠良なる臣民として臣が深く信ずる處のものを赤裸々に述べん若し夫れ此等の三軍をして勝利を得せしめんと欲せば西比利亞幹線及び東清鐵道を複線にせざる可からず斯くの如くして一日に四十八列車を運轉して初めて我軍と歐露との連絡を保ち得可きなり

長大なる西比利亞鐵道の複線工事落成するに至る迄には戰爭は終結するやも未だ知る可からず然れど顧みれば或は戰爭長引きて複線の完成に據りて初めて極東に於ける我露國の慘禍は救はる可きやも測られず

重要なる問題は甚だ多し啻に極東のみならず全露國の將來は此等の問題の解決如何に據りて初めて決せらる可きなり現在行ひつゝある戰爭の勝利と將來に於ける極東の平和の爲には犧牲を拂はざる可からず

若し日本が敗戰したりとするも又清國は眠りつゝありとするも露國にして極東と歐露との連絡を保ち短時日の間に極東に數箇軍團を輸送す

るの力を備へずんば將來とても露國は枕を高くするを得ざるなり若し夫れ枕を高くせんとせば只だ一に複線を建設せざる可からず」と

余が此書を奉りたる結果聖彼得堡にては複線建設の豫算を立て軍用列車數を減せずして建設材料を如何にして極東に送る可きやを研究し初めたり或者は北極を廻りて材料を送る可しと提議したり此事業は將に緒に就かんとするの觀ありたるも不幸なる哉其後暫くにして戰時中の複線建設は行はれざるに至れり

日本の外交

日本人は一方に於て物質的に精神的に日露戰爭の準備に熱中しつゝありしが他の一方に於ては英國と同盟條約を締結し以て心を安んじて露國一國と戰ふの準備をなせり然るに我露國の外交は如何なりしぞ戰爭を避くることをも爲さゞりしが又一方に於ては西境に於て何等の外患

なからしむるに努めざりき見よ極東に派遣したる五箇軍團の中三箇軍團は豫備師團より派遣したるに非ずや是れ西境に全然安心する能はざりしが爲めにあらずや其他內國の秩序維持に關しても軍隊は必要なるも斯くの如き必要は日本には全く無かりしなり我露國は露軍の精銳たる近衛兵と擲彈兵とを戰爭に參加せしめ得ざりしに拘はらず日本の近衛兵は開戰の劈頭第一に九連城に現はれて我軍を攻擊せり露國は平時に於てすら百萬の陸軍を擁するに拘らず日露戰爭に於ては此百萬の兵の力を藉る能はずして豫備兵を派遣せり

千九百四年(明治卅七年)三月九日陛下に奉りたる書中に於て余は極東派遣兵の動員は四月十日のイースター祭後直ちに行はざる可からずと言明したり

昔時にありては兩軍戈を交ふるに至る迄には武裝して長途の行軍を爲したり故に其間に於て將校と士卒とは互ひに相識るに至り又弱者は落

伍して後に取殘さるゝに至る故に不必要なる物は一切携帶せざりき然るに現今の如く鐵道に據て軍隊を輸送する時代にありては其狀況甚だ異れり士卒が極東に達する迄には四十日間も列車内に在らざる可からず而して將校と下士卒とは別の車輛内にあるを以て之を指配するは容易ならず斯くの如きは編成後時を經たる隊には大したる害なきも新編成の軍隊には甚だ害あり余が要求したるにも拘はらずサカロフ將軍は動員の時期を延期せり即ち第十、第十七軍團は五月八日に第五西比利亞軍團は六月一日に動員せられ而して第十軍團の先發隊が出發したるは五月十八日第十七軍團は六月十四日第五西比利亞軍團は七月十二日に出發せしなり

斯くの如く動員は遲々たりしを以て其結果として第十軍團の重なる梯隊が滿洲に到着せしは實に六月卅日にして人員殊に將校の數は著しく定員以下にありたり而してポルタヴの豫備兵は普に常備兵と融和する

能はざりしのみならず一度戰爭のありたる後は或數個中隊に於ては豫備兵と常備兵との間に激しき爭鬪の破裂せんとしたるさへあり余の受けたる報告に據れば常備兵は豫備兵を責めて曰く汝等は戰機間一髪の間にあるに際して戰線を離れたりと又豫備兵は之れに對して曰く

「汝等は兵士なり宜しく戰ひて可なり然れど吾等は是れ農夫なり」

と斯くの如くして兩者の間益々惡しく彼等は遂に武力に訴へて迄も雌雄を決せんと試みたり然れど余は附言す此等の農夫は其後訓諫せられたる純乎たる兵士となり其後の戰爭殊に奉天に於ては勇敢に戰ひたり

厄介なる老豫備兵

余の有したる豫備兵の數は非常なりき極東に送る可く動員したる豫備兵は比較的少壯なる者より取らずして或州の數郡に於ては壯となく老となく凡ての豫備兵を召集したり然るに又同州内に在りても隣郡より

は一兵も召集せざるに或郡に於ては凡ての豫備兵を召集したり豫備隊が滿洲に到着するや間もなく彼等の中の老年者(三十九歳より四十三歳に至る)は體質に於ても精神に於ても用ゆ可からざるを發見せり指揮官の言明に據れば彼等の爲めに戰鬪力を減殺せられたること少からず戰鬪に際して退却する者の中大多數は此老年豫備兵なりき

露國の農夫は三十五歳後は次第に遲緩となりて軍人的姿勢を失ひ壯年者の如く軍營生活に堪へ得ざるに至る殊にポルタヴ州の老兵士の如きは滿洲の山野を駈け廻るに甚だ遲鈍なりき然るに之に反して山間にて育ちたる小にして活潑なる日本人は殊に七月八月の戰爭に於ては著しく吾人に優越し居たりき

三十五歳に達したる露國の農夫は多く一家の長にして時には十人の家族を養ふとすらあり彼等は滿洲に來りても想は常に家郷に飛べるなり是れ一考を要す可きとなり乞ふ次の出來事を見よ

時は奉天に敗れて我等が退却しつゝある時なりき數箇隊は潰亂しつゝ退却し其中には銃を棄てたる者さへありき我參謀部にある一將校は此等の兵士の一人に近づきたるに彼は挨拶したる後問うて曰く

『露國への路は如何に行く可きぞ』

將校は銃を棄てたる卑怯を責めしに彼一兵士は平然として答へて曰く

『余は戰鬪員にあらず家には養はざる可からざる六人の小兒あり』と

伍長の鞭

戰鬪中の我軍規は實に申分無かりき然れど戰線を離るゝと遽きに隨つて益々軍規は行はれざりき後尾にある隊の下級兵士が掠奪者となりたるが如きことは稀にありたり

兵士は敵彈よりも伍長の鞭を怖るゝ樣に訓諫せざる可からずとはフレデリック大王の時に完成せられたる主義なり當時にありては勝利の眞

個は實に此言の中に含まれ居たるなり殊に傭兵を用ゆる時に於ては最も然りとす信仰と忠義と祖國を思ふの念は現時迄の我露軍をして勇敢ならしめ從順ならしめ且一家族の如く和合せしめ來りたり然れど近代に至りて此根本觀念は動搖し露國人民より此等の觀念は去りたり然れば日露戰爭に於ても訓練不充分なる兵士は著るしく增加したり彼等は傲慢にして信に他の行動に批評を加へ戰友に有害なる勢力を及ぼすなり此等の惡兵士を司配するには峻嚴以て之に對し恐怖の念より服從す可く馴らさゞる可からず

同時に千九百四年の夏に至りて伍長責罰法は陸軍に於て平時のみならず戰時に於ても廢止せらるゝに至れり斯くの如くして將校は責罰するを得ざるに至り之に代る可き法律は制定せられざりき勿論戰時に於て禁獄懲役のことを說くは不可能なるやも知れざれど此爲めに上官反抗等の罪惡は頻りに行はれて而も之に相當する何等の罰を加へられざりき

然れど事實としては幾度も責罰は行はれ時には兵士の勸誘に據りて行ひたるとすらあり

兵員の缺如

滿洲にありたる我軍は甚だしく定員以下にありたり我軍の砲には各種の型あり之に加ふるに病院運輸、炊事、參謀部行政部に屬する諸事務の爲に非戰鬪員は甚だしく增加せり我軍には後方勤務に就く可き兵員缺如せり道路改築は必要なり列車の運轉には將卒を派遣するの必要あり斯くの如くして戰線にある隊の兵士は減じたるなり故に一旦戰鬪開始せられんとするや特別任務に就ける戰鬪員は戰線に呼び返へされ隨つて後方勤務は停止せらるゝなり然れど如何に戰線に就く兵士の數を增さんとて有ゆる手段を盡すとも其數は僅に全員の七割五分に過ぎざるなり千九百五年(明治卅八年)三月末に至りて松花江迄の間に於て極力戰鬪

準備の擴充に努めたるも滿洲軍の或隊は僅に五割八分の兵員を有する
に過ぎざりき
歩兵隊は負傷兵の爲めに著しく其數を減じたるを以て凡ての戰鬪に於
て吾人は僅に半數の兵を計算の中に入れたり例せば千九百五年四月に
は第一滿洲軍は五割一分九厘の兵員を有せしのみ十一月に入りて傷病
兵は歸隊したるを以て第一滿洲軍の數は歩兵十萬五千八百七十九其他
の戰員は十九萬二千ありたるも前記各種の任務に就く兵員を除かざる
可からざるを以て實際戰線に就き得可き人員は之よりも非常に少數な
り千九百五年八月諸種の方法を講じて歩兵の數を五割八分九厘に增加
し將に攻勢に遷らんとしたり

軍隊は溶け去れり

上に掲げたるが如き大數の軍隊も戰線に就けば雪の如く忽ちに溶け去

るなり勿論其一部分は負傷戰死に據りて減ず可きも多く負傷者を後送
せんとて上官の許可を得たると否とに拘はらず續々として戰線を去る
なり又時としては何等の理由なきに戰線を去る者ありたり各中隊には
負傷者後送任務を帶べる八名の隊を置きたるが戰鬪開始せらるゝや此
小人數を以てしては到底充分に其任務を果し得ざると明になれり故に
吾等は同情の念より戰線に在る兵士に負傷者後送を許可せり多くの中
隊が雪の如く溶け去りたるは即ち其原因を茲に存す然れば負傷者後送
の口實の下に戰線を去りたる者實に多く時には一人の負傷者を運ぶに
五人六人甚だしきは十人も多く戰線を去れり聯隊旗は元來戰鬪力の源
泉にして戰士を勵ます可きものなるに大抵の場合には時機未だ達せざ
るに退却し而して半箇中隊或は一箇中隊之を警護せり

露國將校は率ゆる能はず

露國陸軍の將校の價値に關して余は第一滿洲軍に對する講評の一部分を茲に掲げん此講評は其重なる點に於て軍の老年將校の意見と一致す曰く

「高等將校の主なる特質は創見無きと、攻勢を取るの方法を知らざると及び固執力の缺乏是れなり此傾向は戰爭の初期に於て殊に甚しかりき以上は大過なき批評なり其結果大單位の軍隊の間に調和を缺き隣接隊の形勢に無頓着になり遂には機に先ちて戰敗れたりと信ずるに至るなり技倆優りたる將校すら隣接隊の攻勢に轉せんとをのみ希望して自己は只だ自己の隊を支持するのみ若し或隊にして敵より非常なる壓迫を受けて退却せんか其隣接隊は之を援けて勢を挽回せんとはせず反て退却するなり斯る際に勇猛一番敵に當る者は殆んど皆無なりき」

聯隊長の職責は軍事的見地より見れば實に重大なるも智識貧無なる彼等を責むるは無理なり聯隊長を戰線に送るも總司令部の援助なくして

單獨に適當なる行動を取り得る者は甚だ稀なりき彼等は地圖を如何に利用す可きやを知らず又部下にも地圖の用方を敎へざりき此傾向は戰爭の初期に於て殊に甚だしかりき

復活せる軍隊

大戰鬪開始せられ將校の死傷者激增し初むるや兵員名簿の兵數と實員との間には甚だしき數の相違を生ず斯くの如くなるが故に軍事行動の範圍內に在る傷病兵は不精々々にも兎に角自己の隊に歸らざる可からず然るに歐露に送還せられたる傷病士官は病癒ねたるに拘はらず依然として歐露に止り居るなり病氣或は負傷の爲に歐露に送還せられたる將校の大多數は聖彼得堡或は其他の都市に於て悠々として時を消し街路を逍遙せり然るに社會も當局者も共に之を觀過し普通のことなして咎めざりき左りながら我陸軍士官の名譽の爲めに一言す可きとあり

送還傷病將校の大多數は斯くの如く隊に歸るを避けたるも又他の一方には傷の癒ゆるをも待たで急ぎて隊に歸りたる者もあり二回三回の負傷にも懲りで隊に歸りたる者も少しとせず然れど一旦戰爭止むや實に慾く可き奇蹟は現はれぬ戰時中は軍隊勤務を爲し能はずと稱して露國に止り居たる將校は戰爭休止するや勤務に適すと稱して續々と隊に歸還し初めたり千九百六年グリンスキイは『復活せる軍隊』なる標題の下に此問題を論せり眞面目なる注意を拂ふ可き問題なりとせずや

各司令官は總司令官なり

千八百九十年に發布せられたる戰時陸軍指揮規定に據れば軍司令官は從來總司令官の有し居たる殆んど凡ての權利を有せり其第十九條に曰く

『軍司令官は總司令官の命令を意に體して自己の判斷に隨つて軍事行動を取る可し』と

斯くの如き過大なる權利は各司令官及び總司令官が別個の地域にある時に初めて充分に適用し得可し然れど奉天戰後の如き形勢になりて各司令官は各々別個の意見に隨つて行動したるを以て大なる不便を生じたり

切斷せられざる戰線は占領せず又た大豫備隊を備へ置く可しなどの最も重要なる根本問題に對する總司令官の命令は實行せられざりき是れ防禦の責任を有する人が各司令官なりしを以てなりリネヰッチ將軍を除くの外は各司令官は戰時陸軍指揮規定に定めたる凡ての權利を執拗に固守して毫も讓らず決斷的行動を急速に取るにあらずんば我軍の連絡の斷たる可き際に於てすら各司令官は此權利を主張して單獨行動を取りたり

勳章の雨

恩賞に關する大なる權利を各軍司令官は與へたるは不必要にして且つ有害なるとなり司令官は自己の召集したる會議の決議に據り第四等聖ヂョーヂ勳章を授與し戰功章を授與するの權利を有す其外に第二等第三等第四等聖アンナ勳章及び第二等第三等聖スタニスウラス勳章と劍と綬を授與するの權利を有す元來各司令官は斯くの如き權利を有するを以て或軍の將校は他の二軍の將校よりも恩賞少きとあり是れ各司令官は各々自己の見解に基きて論功行賞を行ふが爲なり故に恩賞少き軍の將校は自ら恩賞多き軍に對して羨望の念を抱くに至るなり隨つて恩賞の價値も下落し將校等も亦此事實を知るに至れり而して殊に劍と共に授與せらるゝ勳章の如きは濫授せられたりグリッペンベルグ將軍の如きは最も激しく勳章濫授を行ひたる人なり

千九百五年二月廿三日余が第二軍の一部を閲兵したる時の所感を我日記中に記しありグリッペンベルグ將軍は配下の各砲兵中隊に戰功章三十個を分配したり僅々七十名より成れる砲兵中隊に斯の如き多數の戰功章は授げられたるなり余の最も喫驚したるは前線にある一砲兵中隊が未だ嘗つて戰鬪に參加したること無きに全隊殆んど凡て戰功章を佩用し居たり此中隊長は余に語つて曰く余は之を各員に授與する時羞恥の念を感じたりと余は此等の兵士に告げて曰く將に來らんとする戰爭に於て此等の勳章に相當す可き戰功を建てよと

總司令官の交迭

最後に我軍の行動を妨げたるものは總司令官の屢々交迭したる事なりとす十九箇月間に總司令官は三度交迭せり交戰の初より千九百四年十一月中旬迄八箇月半の間は總司令官の權はアレキセーフ之を握り居たり

十月中旬より三月初旬迄四箇月半は余總司令官たり三月初旬より戰爭の終期迄六箇月間はリヂ井ッチ將軍總司令官たりき

十九箇月間に於て余の總司令官たりしは僅に四箇月半にして而も之は初にても無く又終にても無く中間にてありき然るに世人は此事實を忘れて余を以て戰敗の全責任者となすに似たり

此事に關しては千九百六年二月の上奏文に於て余は次の如く言ひたり

『指揮者變りたる吾軍隊は物質的に精神的に日本軍に勝つの力を有したりや否や是れ將來の史家が決す可き單簡なる問題なり』と

時機尙早し

時機至らざるにポーツマスにて平和條約を締結せし結果日本は亞細亞大陸に於て戰勝國となりたり之が爲め露國は勿論苟も亞細亞に領土若くは商業上の利益を有せる列國の苦痛は察すべし漸く近時顯はれ來り

たる黃禍は今や眞に其形を顯はせり

露國が此の如き不快不利なる條約を締結するに至りし眞因は露國內部の不利及び日露戰爭に對して人民が冷淡なりしにあり陸軍の如きすら戰爭を欲せず且つ之を必要とせざりしなり余は千九百六年二月廿一日皇帝陛下に一書を奉つりて曰く若し戰爭を繼續し得るとして露軍の現狀を最も公平露骨に研究するも吾露軍が最後の勝利を博すべしとは我隊軍に於て信じて疑はずと是れ少くとも軍隊の關係する範圍內に於ては事實なりき露國は日露戰爭に於ては小軍隊を用ゐ且つ最も不利なる狀態の下に戰爭を繼續せり即ち露國內部には反亂起り且つ滿洲と歐露とは僅に單線鐵道に據りて連絡せられたるのみなればなり遼陽沙河及び奉天戰に於て日本は陸軍の全部を使用したるに拘はらず我露國は實に陸軍の一部分を使用したるのみ奉天戰に參加せし我步兵は三十萬を超ねざりき

千九百五年八月及び九月に於て殆んど凡ての援軍が滿洲に到着したる時に於てすら我が全陸軍の三分の一を出兵したるに過ぎず一斯る間に我軍は前後殆んど卅萬の日本兵を負傷せしめ或は戰死せしめたり哈爾賓を含む北滿及び鐵嶺、寬城子を含む南滿の一部は尙ほ我有たりき故に日本は防備なき樺太を占領し得たる外には毫も我領土に手を觸るゝ能はざりき

百萬の陸兵

千九百五年三月我軍は南滿の四平街を占領し之を保持し不斷の精力と剛一剛に增す大兵を以て平和克復迄戰ひたり組織整然として戰に慣れ信賴す可き將校に率ゐられたる百萬の兵は日本軍と最後の血戰を爲さんとて準備しつゝあり千九百五年九月我露國の歷史には未だ曾て之無き程の大軍を有し居たり然るに底事ぞ吾等は驚く可き報を得たり即ち此時我全權大使と日本全權大使との間に平和條約締結せられたるなり

此時迄に我等は老兵の多數を後方に送り其代りとして新に正規兵として募集したる若年の兵を加へたり若年者の中には實に自ら振つて戰はんとするの義勇兵もありたるなり我軍の完備したるは開戰以來此時が初めてなりしなり機關銃、曰砲、野戰鐵道及び電信電話も滿洲に到着し居たり無線電信も着し輸送機關も完備し軍の衛生狀態も亦頗る良好なりき

女共迄が俺等を輕蔑するだらう

余が滿洲に到着したる時より余は常に部下に向つて曰く完全なる勝利を得るにあらずんば故郷に歸へる可からず戰勝を得ずして再び露國に歸るは是れ屈辱なりと而して余は凡ての階級の將校の同心協力を得て各

兵をして戰爭の必要なる所以を信せしむるを得たり然れば豫備兵の如きも勝利を得ずしては到底故郷に歸り得ずと信ずるに至れり

「女共迄が俺等を輕蔑するだらう」とは余の屢々聞きたる處なり斯くの如き心の傾向は勿論愛國心よりも價値少く前進せんとする軍隊的精神及び勇敢なる行爲に對する渴望心よりも價値少し然れど斯くの如き狀況の下に戰爭を開始したるからには切めても斯くの如き手段に據りて將來の戰爭に於て將士の心を勵ましゝる可からざりしなり故に將來の歷史家は此等の事實を綜合して平靜なる判斷を爲し露國は敗れたりと雖も最後には勝利を得るの地位に立ち居たりと記さゝる可からず

日本の戰死者は常備兵の數よりも多し

疑ふ可からざる諸報告に據りて判斷すれば日本は精神的に物質的に衰滅し初めたるが如くなりき凡ての資源は盡き滿洲より吾等を驅逐せん

とせば實に非常なる努力を費し驚く可き犧牲を拂はざる可からざりしなり我參謀本部に達したる報告據にれば日本の平時の軍隊は十一萬六千人にして其內一萬三千人は常に永久賜暇を得居たりとのことなり而して豫備兵は卅一萬五千人なるを以て露國の計算に據れば日本の全軍隊は四十一萬八千人なりしなり然れど日本の衛生官憲の發表したる報告を基礎として計算すれば百萬以上の兵が召集せられたることは明にして其爲め人民の數を大に減じたり日本は戰爭の爲めに法律を變改して既に後備役滿期となりたる者を再び軍籍に置き千九百四年千九百五年の新兵のみならず千九百六年の新兵迄募集するの必要に迫られたり故に戰爭の終期の捕虜の中には小兒の如き兵士及び老人ありたりき

日本軍の戰死者及び負傷者の數は多かりき東京の名譽墳墓(靖國神社のことか)に葬られたる者は六萬ありき是れ只だ戰場に於て死したる者のみ其他に負傷が原因となりて死したる者五萬を加算せざる可からず故に

日本軍は殆んど常備軍等しき數の戰死者を出したる次第なり然るに百萬の兵を有する我露軍の死傷者は日本軍と比較すれば實に數等少かりき而して戰時中日本軍の病院にて手術を受けたる者は五十五萬四千人にして其中二十二萬は負傷者なり戰死者に病死者を加ふれば日本軍は十三萬五千人を失ひたるなり

日本は力盡きたり

日本軍は殊に將校間に戰死者多かりしも一般の戰死者は更に多かりき日本軍の全聯隊全旅團にして我軍の爲めに殲滅せられたる者少からず是れ彼等が頑强に戰ふが故なり千九百四年十月二日の戰及び千九百五年二月の戰に於ては殊に然りしなり遼陽及び奉天戰に於ても我前面を攻擊したる日本軍は多大の損害を受て而も成功せざりき且つや我軍は頑强なりしを以て日本の軍氣に大に影響したり戰爭の終期に至りては

常備兵は多く後送せられたるを以て急速に鍛練を受けたる新兵は常備兵の如き抵抗力を有せず又前進の熱心をも有せざりき之は殊に奉天戰に於て余の著しく感じたる處にして我軍が四平街に於て最後の陣地を布きたる時は最も此感を深くしたり

我義勇兵及び前線にありたる諸兵が日本軍を攻擊する時に當りてや彼等は最早や前の如き勇敢なる突進を爲さゞりき南方國民の特性を現はし初めたるなり彼等は戰爭に倦み初めたるなり戰爭前六箇月間彼等は我軍を攻擊して松花江畔に壓迫し最後の勝利を得んとはせずして反つて我軍に防備準備の時を與へたり我軍が四平街の陣地を占め居たる時捕虜の數は次第に增加し彼等は千九百四年の捕虜の如く狂的熱心を有せざりき而して彼等の多くは戰爭の重荷には堪ね得ずと眞直に白狀したり又た戰死者及び捕虜の懷中にありたる故國よりの書簡を檢するに戰ひに倦みたることは明に現はれ居たり稅租の著しく多くなりたること物

價の騰貴收入の減收などを記しありたり西比利亞第一軍團と對し居たる日本の一個中隊は全力を有しながら皆擧つて降服したり斯くの如きは前に曾てあらざりし處なり

旅順攻圍戰に於て日本に從事し居たるノレガード氏は日本軍の愛國心が漸次に減退し行くを證明せり彼の言明に據れば横濱、大阪、神戸の如き聯隊區の豫備兵は戰爭の早く終結せんとを希望し居たりとのとなり又此等の地方より出でたる或聯隊は前進の命に從はざりしとのとなり

歐洲日本を見限る

物質的方面に於ても日本は好望ならざりき軍資金を得るは益々困難となり軍隊の增加と共に軍費も亦大せり日本軍は適當なる時期に於て砲兵に充分なる彈藥を供給することすら困難なりき彈藥の缺乏は沙河戰に於て殊に甚だしかりき又た日本軍の成功に對して歐米諸國の冷淡

なりしことは日本の等しく惱みし處なり最初に於ては英獨兩國は日露戰爭を喜び兩國の國力疲れたる時に初めて握手するを利益なりと感じ居たり然れど滿洲に於て日本をして全勝を得せしむるは歐洲の利益にあらず何となれば勝ち誇れる日本は清國と聯合して「亞細亞人の爲めの亞細亞」なるモットを掲げ以て自國の地位を高くするならん而して此兩新興國は亞細亞に於ける歐米人の企業を失敗せしむるを以て第一の目的とするならん彼等の最後の目的は亞細亞より歐洲人を驅逐するにありしならん

歐洲は世界の大市場無くんば其狹小なる領土のみを以てしては生續する能はず「米人の爲めの亞米利加」「亞細亞人の爲めの亞細亞」及び「亞非利加人の爲めの亞非利加」などの思想が勝利を博するに至らば歐洲は大なる損害を蒙る可し而して將に來らんとする此危險は實に重大なるを以て歐洲諸國は相互の爭鬪を中止して他の民族に當らざる可から

す然らざれば彼等は歐洲人を再び貝殼の如き小領土に追ひ込むに至る可し

斯の如き思想が歐洲人の間に起りて輿論の變化を見たるは露國に取りては幸福なりき其他に日本に對する軍費供給を妨ぐるに至りたり若し夫れ我露軍にして只だ一回の打擊を日本軍に與へんか日本及び日本軍には强力なる反動起る可かりしなり日本には既に財源盡き居たるを以て若し我軍にして戰爭を繼續せんか日本は必ずや平和を乞ふに至る可く其結果露國には有利にして名譽なる條約を締結し得たる可きなり

戰爭の二世紀間

然れど日露戰爭は我露國民に一の重要なる慰藉を與へたり慰藉とは何ぞや即ち我西境諸國が露國に對して何等の惡計畫を有せざるとなり若し歐洲の隣國にして我帝國の西國境を變せんと欲せば千九百五年及び

千九百六年程好都合なる時は復あらざりしなり露國の西境を氣遣ひたることが非常に日露戰爭に影響せしは余の既に叙說したる處なり我露國は極東に發り得可き最良の軍隊を本國に止めて以て防禦せざる可からざりしなり

余は千九百年皇帝に奉りたる書中に於て言へり『十八世紀と十九世紀に於ける露國の重なる事業は實に領土の擴張なりしなり今後に於ても境界問題は第一に定めざる可からず故に吾等は現今の國境を以て滿足す可きや否やの問題を先づ第一に解決せざる可からず又此問題は同時に我隣國も解決せざる可からず』と其時に於て余は思へらく我露國も我隣國も共に國境を變せざるが利益なりと是れ今も尙ほ余の信ずる處なり國境の變化は何れの國に取りても高價なるものなり

過去二百年間の重なる事業は北西方及び南方に於ける國境の擴張なりき過去二百年間に於て平和なりしは只だ七十二年間なりき殘る百二十、

八年間に於て三十三の外國戰と二の內國戰を戰ひたり波羅的海及び黑海に出でんとして二世紀間戰ひ多大の犧牲を拂ひたり我國が大平洋に出でたるは千八百九十七年にして之には血を流さゝりき然れど此勝利の容易なりし中には既に今回の敗戰の種子を宿し居たるなり領土擴張の結果我領土內には諸種の民族を含み中には露國に敵意を有せる民族すらありたりき露帝國の國境地方には未だ露國民と同化せざる民族を以て滿たされたり故に我國境は軍事的見地より見れば千七百年に於けるよりも千九百年は惡かりき

邊境に對する意見

露國の國境は一萬一千哩に亘り九王國と其境を接するを以て余の意見にては今其國境を變改するの必要を認めず此論斷は最も平和的なるものなり何となれば若し露國にして現今の領土を以て滿足し十八世紀及

び十九世紀に於て多大の努力と犧牲を拂ひて得たる領土を固むるを以て第廿世紀の事業とせんか露國は隣國と戰ふの機會少くなる可きなり現代に於て露國が斯くの如き政策を執る可きは絕對的に必要なり殖民地を擴張せんとして露本國の拂ひたる犧牲は大なりき而して其組織と邊境の防備に費しつゝある犧牲は今も猶ほ大なり故に露國人民の發達に大なる影響を及ぼしつゝあるや明なり我邊境は是れ露本國の經費に據りて存立するなり故に邊境は露國を强めずして反て弱むるものなり然るに現代に於ては邊境の組織と防備に對して各種の要求提出せられつゝあり故に外國に於て新に事業を興さんとするは殆んど不可能事に屬す

然れど廿世紀には我國民も增加す可し然るに露國は現今の國境を以て滿足し得るや否や或は又猶も歷史的問題を解決せざる可からざるや否や是れ余が陸相として千九百年に皇帝に書を奉りたる時に余の胸中に

懐き居たる疑問なり第廿世紀に於ては歐洲及び亞細亞には領土を擴張せずして地中海に進出口を求め之と同時に大平洋及び印度洋にも不凍港を求むるを目的とするの可なるを余は認め居たり然れど斯くの如き目的には困難と危險を伴ふ可きを以て余は千九百年の上奏文に於て次の如く言へり

『黑海よりの進出口を求め大平洋印度洋に不凍港を得んとするの希望は吾人に取りては合理なるも斯くの如き大問題は全世界の利害關係に影響するを以て若し吾人にして一旦此問題に手を染めなば英、獨、土、墺、日清の聯合軍と戰ふの準備を爲さゞる可からず進出口を得んとするは單に露國のみの問題にあらず其結果をも計算せざる可らず露國にしてボスポラスを領有し地中海への進出口を得るに至らば露國は蘇土運河を國際的となさんが爲めに埃及問題にも嘴を容れ得に至る可し又印度洋に進出口を得ば永久に印度は壓迫を加へらる可し然れど斯くの如き結果の中にて最も確なるは歐米の商人と世界の市場に於て競爭するに至る可きとなり大平洋と波羅的海とを聯結する鐵道を有し地中海、印度洋大平洋への進出口を有するに至らば露國は國產に富めるを以て全世界の强力なる商敵となる可し

露國にして斯る進出口を得んとせんか第十八世紀第十九世紀に於て經驗したること無き程の大なる困難と危險に遭遇す可し是れ關係列國の軍備を見れば自ら明白なり我現在の軍隊を以てしては到底此等の目的を達する能はず否な一旦之を試みんか其結果は必ずや悲觀的なる可し紀元第二千年の露國に必要なる可き新事業を遂行せんとするは現在の國力の能く堪ふる處にあらざるのみならず隣國の軍備比較的に大なるを以て露國は現在の領土を維持するにすら困難を感ずるに至る可し』

國境戰無し

又他の方面より之を見るに現在の國境を變改するは戰時に於て我隣國にも利益あらざる可しと信ず獨露の國境は千七百エルストに亘り地理的境界と甚だ惡しく一致せり而も猶ほ獨逸は露領の一部を獲得せんとして露國に侵入するは獨逸の利益にあらず墺太利も亦然り彼斯は地理上印度洋に望み歐洲より印度に至る最捷路なるが上に文化進まず兵力弱きを以て自然列國間に於ける優越權の爭奪地となる可し今迄にては英露兩國は互に此優越權を得んとして爭ひ居たりしも今や獨逸も亦此禍亂に投せんとしつゝあるや明なり小亞細亞に勢力を樹立して彼斯と境を接せんとて腐心しつゝあり然れど政治的狀態及び軍事的狀態より之を見るも我露國は彼斯との國境を變改するの必要毫もあるなしアフガニスタンとの國境に關しては現在の國境を變じて更に惡きものにするは露國の利益にあらずと余は久しき以前より信じ居たり千八百七十八年余が參謀本部に於て中央亞細亞係となり居たりし頃余は亞細

亞に於て英露兩國の平和的協力を爲すの必要なるを信じ印度に向て攻擊的計畫を樹つるの不可なるを信じ居たり英國と親善なる關係を樹立するは自然なるのみならず實に望ましきとなりとす何となれば一旦印度に叛亂起りたる場合には露國は英國の側に立たざる可からざればなり基督教徒と非基督教徒とは第廿世紀に於いて亞細亞に大爭鬪を起すに至る可し而して若し斯る爭鬪起らば露國は人道上基督教徒たる英國に加擔せざる可からず

極東に於ける次の大戰爭

日露戰爭の經驗に鑑みて余は信ず露國は歐洲列國と妥協し以て將來日本或は日清兩國が吾人に攻擊を加へたる場合には我露國の全軍隊を使用し得る樣にせざる可からずと日本は戰爭に勝利を得たるに拘はらず狂熱的に軍備擴張しつゝあり清國は日本將校指導の下に日本式の大軍

隊を組織しつゝあり遠からずして日清兩國は滿洲の野に百五十萬以上の兵を出し得るに至る可し若し夫れ日清兩國にして此大軍隊を露國に對して使用せば露國は西比利亞の大部分を奪はれ且つ二等國となる可し極東に於て露國の受けつゝある壓迫は今や明白になれるを以て露國人民の各階級は若し將來日清が吾人に攻擊を加ふる場合には一致團結して祖國の防備に當るの覺悟無かる可からず

我軍備を擴張し其効力を增すの必要なるは日露戰爭に據りて明白となれり過去五十年間に露國の戰ひたる三戰爭は實に露國將校の缺點を暴露せり是れ露國文化の進歩せざると一般生活狀態及び露國人民の活動力等に其原因を有するや大なり然ればそは別問題として若し陸軍にして數百萬の國民中より最も精力ある最良の人物を吸集し得たらんには我軍を指揮するに足る數百の良將校を得るや易々たるのみ故に第一に軍服をして露國青年を引き付けるものたらしめ第二には軍人の服役期

間に於て軍隊は戰爭の爲めに養はれつゝあるとの觀念を吹き込むに努力するの必要あり

其第一の目的は既に達し得たり我露國に於て軍人の尊敬せらるゝは久しき以前よりのとなり人民の文化低きが故に軍人が斯くの如く尊敬せらるゝならん最近のとなるが只だ軍帽とコケードのみを着したる人或田舍に行きたるに猶ほ且つ軍職にある人と見誤られたり農夫等は彼に對して脫帽し重荷を積める馬を雪の中に避けさせて彼を通過せしめ沈默したる儘彼の卑しき暴言を聞き居たり

然れど第二の目的は未だ達せず何となれば軍服を着たる最も精力あり且有爲の士にして未だ曾て軍役に服せざるのみならず軍隊と何等の關係無き者甚だ多し十八世紀に有名なる太公の子に軍服を與へ木馬に乘りて室內を遊び廻る間に其階級を進むるの制度起りたり故に其後に至りては軍服及ひ時としては將官の稱號が軍人たるとを意味せざるに至

れり軍服は俗侶を除く凡ての社會に用ゐらるゝに至り內務會議員大使元老院議員各大臣次官總督知事邊境の行政官等に至る迄凡て軍服を着し夫々の階級に坐すに至れり然れど其內或二三の者を除くの外は皆軍務と何等の關係も無し我將官名簿中の僅なる人物が實際に於ての軍人なり猶ほ最も惡きとには實際の軍人が軍人ならざる軍人よりも階級下にして且つ其俸級の少きとなり狀況斯くの如くなるが故に最も强く最も勢力あり最も有爲なる人物が軍役を去るは自明の理なり

司令官の缺點

軍隊の間に國民の最良分子を集め得るとしても高等將校は進級の曉に學習したる學課を忘る可からず又平和の時に於ても軍隊指揮の實習を怠る可からず而して現今の如く單に役所務めを以て滿足す可からず從來の狀態にては將校は進級するに隨つて次第に野戰の實習に與らざるに至る.の間軍管區の司令官の職に在りたる人にして一度も演習に參加せず又數年間馬に乘りたることなき人其例に乏しからず將來は我高等將校は時の大部分を實習に割かざる可からず

我常備兵及び豫備兵の缺點は即ち我露國民の缺點なり日本及び獨逸其他の國に於ては愛國心を人民に鼓吹するに努め居れり先づ小兒の愛をして其邦家に向はしめ自國に對する誇の念を强からしむ此等の國に於ては諸種の愛國的協會の組織は奬勵せられ凡ての遊戲も奬勵せられ人民が數百萬挺の小銃を所持して射擊法を練習するも政府は毫も恐れざるなり然るに我露國政府は斯くの如きとを爲さゞるのみか到る處に政治的叛亂の徵を認め居るなり

我露國の學校は愛國心を奬勵するに努力せず學校系統は雜然たるが故に其の結果は猶ほ更惡し高等なる學校の生徒は科學を研せずして政治學を研究し居れり

我豫備兵をして悉く智あり且つ眞の愛國心に馳られて死を以て國に殉するに至らしむるには學校教育と一般人民の生活狀態とを全然改善するの外他に策なし而して意識的愛國心及び國家に對しては何物をも犧牲に供すべき覺悟を皷吹するを以て其改善の目的となすべきなり

革命と軍規

陸軍が戰場に於て堂々の陣を張り戰うて勝を制するの行動は其軍規に基因すと雖も人民の大半が政府を恐れざるに至るか若しくは政府が人民を恐るゝに至れば陸軍々規を維持するは殆んど不可能の事たるべし現時吾軍規が弛廢の觀を呈するに至りしは主として陸軍が目境を越えて政治區域に入りしが爲なるべし內亂起れば常に陸軍は警察と協力して之れが鎭壓に當るの命を受く然も其內亂たるや軍事上の暴動のみならず政治上の騷擾にても警官憲兵等の威力及ばざるに方りては每に陸

軍の應援を待てり軍法會議は政治犯人及び諸種の罪人を銃殺絞罪等に處するに至りても陸軍將校を招喚す

以上の如く陸軍の活動が他境に及びしを以て人民の陸軍に反抗する聲起り陸軍部內に於ても亦人民を惡むの念及び兵士をして市民を銃殺せしむるに至らしめし將校を惡むの應を起さしむるに至るなり而して其結果は如何曰く軍規の弛廢是なり

國家の內亂及び公然政府に反抗するの擧を鎭壓するは陸軍の任務ならんも若し其行動にして長時日を要するか或は兵力に據るも政府は鎭撫する能はざる時は陸軍部內にては其行動の方法及び指揮官の適否に關して疑ひを挾むに至るは必然の理なり

此の如く陸軍に附加せられし重任は今や殆んど其跡を絕たんとし國の秩序恢復せられんとせりと聞き余は斯る日の一刻も早からんを望む蓋し然らずんば陸軍の腐敗愈々甚だしきを致すべければなり

余は滿洲第一軍團の將校と別るゝに臨み嘗て述べたる事あり曰く最近四五十年間に於ける露國の教育及び社會狀態は大露國の發展に對し健全自立の要素を給せし事なきは明々たり然れども今や皇帝陛下の不屈なる意思によりて露國は自由の天惠を得人民は官僚の保護を脫し各其力を思ふ儘に活用し國家の爲めに盡すを得るに至れり而して自由の天惠に加ふるに良敎育を以てせば露國民の物質上及び精神上に於ける程度を高め得るは期して疑はざる處なりと

再戰の準備

今後再び東洋に於て干戈を交へ必勝を期せんには左の決心を要す第一露國兵全軍を自由に戰場に送り得る事第二西比利亞鐵道の使用を獨占し得る事第三西比利亞の水利によりて東西重貨物の輸送を便にする事第四陸軍本部は事情の許す限り露本國より西比利亞に移す事第五再戰

をなすには之を陸軍のみに委せず擧國一致愛國の熱誠を以て之を當るべき事等にして窮五は諸項中最も必要なりとす熟ら〳〵露國の歷史を觀るに日露戰爭當時は內憂外患交々至り實に國步艱難の時たりしが今や皇帝陛下に導かれて新生涯に入らんとせるものなれば一時の艱難に屈せず速かに世界中比肩するものなき一等國の地位を失墜せざるに至るや必せり現に露軍中に稍々其光明を認めんとせる改革の事業を遂行するに際して日夜心肝に銘して念慮を放す可からざるものは皇帝陛下が千九百四年陸海軍に下されし詔勅なりとす勅に曰く露國は强國なり而して其建國茲に千有餘年其間大難起つて國家を危ふせしものなきにあらずと雖も每に之に捷つて國光愈々輝き國力益々强きを致せりと日露戰爭の敗衂により露人は內大いに頓挫せしと雖も然も之に屈する事なかるべし而して戰敗の苦によりて露國の新勢力勃興し益々國威を發揚するを得ん

（完）

日露新戰史 第三輯 終

クロパトキン將軍の著ぜる秘史

日露新戰史

第壹輯
第貳輯
第參輯
完

各一册正價金拾貳錢郵税金貳錢郵券代用二割增
各輯寫眞版口繪入

節山 江藤新作著　故水野年方畫

再版 武門武士

四六倍版 總クロース洋裝 表紙美本 正價金七拾錢 郵税内地八錢 清、韓、臺灣、樺太拾貳錢

本書は武士道を鼓吹せんが爲めに報知新聞紙上に連載して江湖の大喝采を博したるもの讀者の希望によつて出版し裝釘此に成る挿畫拾枚は浮世繪の大家故水野年方の筆する處古英雄の風飛躍たり

發行所 東京丸の内 報知社出版部

大賣捌 東京堂 至誠堂 新橋堂 上田屋 東海堂 北隆館

如何にして百歳の健康を保つべき乎

報知新聞第六版懸賞當選

長壽法

正價四拾五錢
郵税六錢

此大疑問は本書によりて解決せらる

報知新聞第拾五版懸賞當選四版

豆腐料理

定價廿錢
郵税四錢

野菜料理

定價卅錢
郵税四錢

最も滋養に富める平民的料理法の臺所寶典也

發行所 東京丸の内 報知社出版部 大賣捌 東京堂 至誠堂 新橋堂 上田屋 東海堂 北隆館

安全な買物

新聞雜誌の廣告にある商品書籍は勿論東京市内の各商店にて買捌き居れる品物を買はんとする方は本部へ申込まるべし

安く慥かな品物を代價の五分引で買て差上げます又は本社の支部を新設しましたから倫敦紐育の雨の市に於ても迅速に且確實に取扱ひます

▲商品　機械類寶石時計和洋小間物靴鞄履物文房具呉服洋服類化粧品樂器玩具、運動具、自轉車、自働車、喇叭類、銃砲、刀劍其他何品限りなし

▲書籍　新刊書籍、雜誌、古本を初め如何なる書籍も定價の五分引にて取次します

▲株券　不用の株券を賣らんとする方は豫め現株を預け置き入用の株券を買はんとする方は代價の全額を送らるべし本部は無手數料にて確實なる賣買の仲介者たるべし

▲爲替　東京へ送付さるべき物品代金學資金等一切送金の取次代理事務を取扱ふ方法は最寄郵便局にて振替貯金用紙を貰受け其の金額に手數料五拾圓迄五錢百圓迄拾錢千圓迄拾五錢を添へ振替口座七三八報知社代理部宛にて送金さるべし日曜大祭休みなし

▲注文　品名、分量、大小、形狀、品質、代價、使用向等明細に申越されたし

▲送方　小包郵便及び代金引換小包郵便、但し大量の物は普通運送便にて送り、又市内は自働車にて配達すべし

▲送金　本部へ注文の用向は別に手紙や葉書を御差出しに及ばず振替貯金用紙裏面通信文記載欄に如何なる御用事でも御認めになれば切手も手數料も要らずに無料にて本部に届きます送金は振替貯金口座第七三八番へ御振込を乞ふ但し振替貯金は普通郵便物よりも到着三四日おくるゝことを豫め御承知被下度候

▲案内

東京丸の内 報知新聞社代理部 (電話本局 參壹壹貳番)

明治四十二年二月十日印刷
明治四十二年二月十三日發行

正價金拾貳錢

不許複製

編輯者　東京市麴町區有樂町二丁目一番地　横前正輔

發行兼印刷者　東京市麴町區有樂町二丁目一番地　中村政雄

印刷所　東京市麴町區有樂町二丁目一番地　報知文社

發行所　東京市麴町區有樂町二丁目一番地　報知社出版部

42
296

東京
新聞報
部版出

42
296

42
296